

市民参加ガイドブックの構成概要(案)

目的・狙い

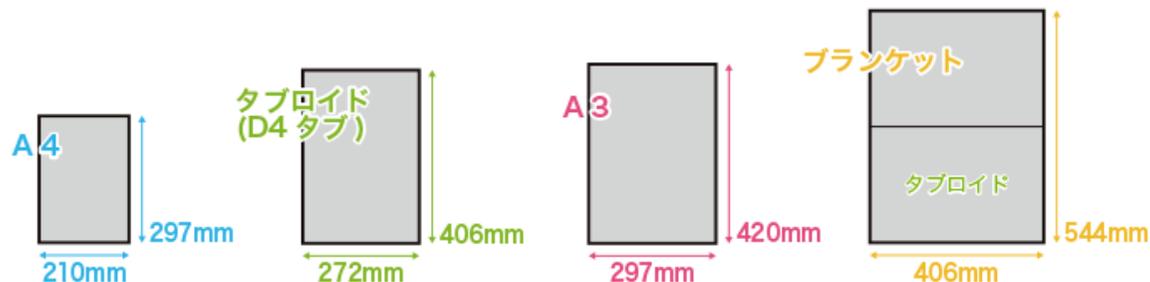
「市民参加」とは、「参加と協働」は何か、市民にビジュアルに楽しく伝え、興味を持ったり、考えたりする「きっかけ」を作ることを目的に作成する。

考え方

- ・メインターゲットは、市民参加、協働というイメージがあまりない層、若い世代。
- ・多様な主体が参加や協働により、よいまちをつくっている理想像（目指す地域社会の姿）を示す。
- ・計画の基本方針や重視する視点の要素は盛り込むが、言葉では説明しない。
- ・ターゲット（若者）が自分ごととして興味をもってもらいやすいイメージを大事にする。
- ・より詳しく考え方を知りたい人は計画のデジタルブックへQRコードで誘導。
- ・何かしてみたい、何をしてる人がいるか知りたい人は、みんなでつくる京都ページへQRコードで誘導。

構成

タブロイド版（D版）
二つ折り（4ページ）



活用イメージ

- 学校や大学の授業等で活用
- 公共施設やコワーキングスペース等で配架
- 市役所に来られた方に口頭で説明しながら手渡し
- 市民から市民に渡っていく
- ・・・

令和2年度第3回フォーラム会議での主な委員意見

- ・文字数をできるだけ少なくして、**ビジュアルで理解できるようにする工夫**が必要だと思う。
文字数が多い説明になると、途中で読むのを諦めてしまう方が多い。
- ・タイトルを最初に読んだ際に、「みんなでつくる、京都ハンドブック」と読めた。
「みんなでつくる京都、ハンドブック」だとすると、少し分かり難いと思う。
⇒ポータルサイト「みんなでつくる京都」から名付けている。**市民が読みたくなる名称**にしたい。
- ・**ハンドブックを読むことをきっかけに、市民同士や事務局との間にコミュニケーションが生まれると面白い**と思う。
ポータルサイトと連動すると良いのではないか。
- ・ハンドブックを作るのは初めてのことが。ビジュアル化して簡単にすると、役に立たないこともある。
読むターゲットを絞って決めることが大事だと思う。
- ・提言書の重視する視点に合わせて、**若者や次の世代をターゲットにする**のは良いかもしれない。
- ・対象は、今は決まらないのか。記載例は子育て世代向けに思える。
施策の横にQRコードが付いていれば、そのQRコードから詳細を子どもと一緒に見てみたいと思う。
⇒特にターゲット（対象）を決めていた訳ではないが、楽しさを感じられるポップなビジュアルを考えていた。
これまで市民参加にあまり興味を持っていただけていない層である、若者や次の世代に興味を持ってもらいたいと考えている。
また、作った途端に古くなって使えないものにならないよう、ポータルサイトへの誘導や連動により、少なくとも5年ぐらいは使えるものにしたい。